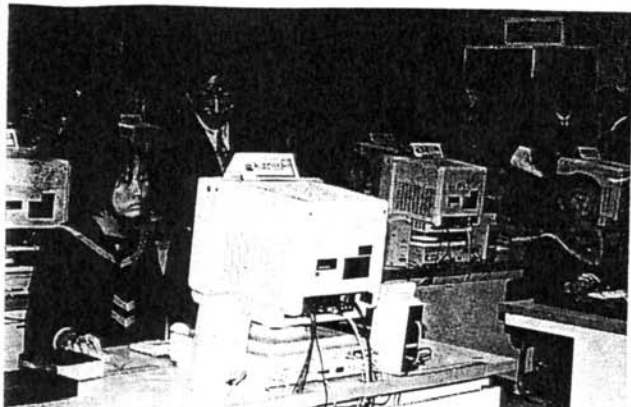


# ネットワーク社会を体験

盛岡白百合学園高等学校(水原洋子校長)で二十一日、インターネットを利用した授業が公開された。同校は今年から文部省・通産省が推進しているネットワーク利用環境提供事業「インターネット百校プロジェクト」に参加している。県内から約六十人の学校関係者が訪れ、授業の様子を見学した。

## 盛岡白百合学園高 インターネット授業

世界中の情報をコンピュータで交換するインターネットは現在、五万のネットワークを持ち約百四十カ国、五千万人以上が利用している。同校では二十四台のパソコンを11教室に設置、高校二、三年生の選択科目として週三時間の授業を取り入れたほか、情報ビジネスや中学校の家庭科などでも活用を試みた。



インターネットを利用し国内外の情報を検索(盛岡白百合学園高等学校)

公開授業では、生徒が教諭の説明に従ってパソコンのホームページを探索。インターネットで結ばれた国内外の政府機関、マスコミ、学校、企業などから流されている情報を画面に呼び出す。授業を担当した柳田久弥教諭は「インターネットを使えば、これまでの受け身の情報収集とは違い、時間や空間の制限を越えて自分の意思で欲しい情報を探すことができる」と説明していた。次回の授業では、全

ルで情報を交換しながらインターネット上の討論に挑戦する。生徒の一人、佐藤未奈さん(一八)は「コンピュータは操作を覚えるまでがたいへんだが社会に出てからも役に立つと思う」と話していた。

同校ではインターネットの活用を通じて、国際的な視野で情報社会を理解する能力や情報を自ら収集、判断しコミュニケーションのできる力を養ってほしいと考えている。限られた時間の中でコンピュータをどのように従来授業に取り込んでいくかが今後の課題という。見学者からも「ネットワーク社会のマナーやモラルの指導はどうすれば良いか」「教材データはどのように集めるのか」「インターネットを数学で利用できるか」といった質問が出されていた。